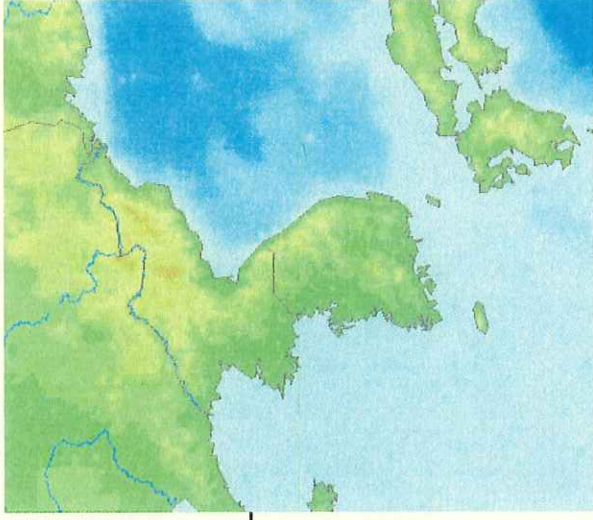


最近の北朝鮮情勢



外務省アジア大洋州局北東アジア課

平成22年3月

北朝鮮をめぐる最近の動き(1)

- 温家宝中国国務院総理の訪朝(2009年10月4日～6日)

10月4日、温家宝中国国務院総理が訪朝し、金正日国防委員長他と会談。温総理からの六者会合再開に向けた働きかけに対し、北朝鮮側は、朝鮮半島の非核化は金日成主席の遺訓であり、朝鮮半島の非核化を目指すと目標に変わりはなく、米朝間の敵対関係を平和的関係に転換する必要があるとした上で、六者会合を含む多国間協議への復帰の可能性につき言及。
- 大韓赤十字社による対北朝鮮人道支援の発表(同年10月26日)

10月26日、南北赤十字実務接触(同16日)での北朝鮮側からの人道支援要請に基づき、大韓赤十字社が、トウモロコシ1万トン、粉ミルク20トン、医薬品等を北朝鮮の乳幼児・妊婦等の弱者層向けに支援する旨北朝鮮に通知。
→ 北朝鮮は本年1月15日、トウモロコシ1万トンの支援を受け入れる旨を大韓赤十字社に通報。
- 南北艦艇間での銃撃戦(同年11月10日)

11月10日の11時半すぎ、朝鮮半島西側の黄海において、南北艦艇間で短時間の銃撃戦が行われた。韓国側に死傷者はなかった。

北朝鮮をめぐる最近の動き(2)

- 北朝鮮におけるデノミネーションの実施(同年12月1日)
12月1日、北朝鮮は通貨の計算単位の切下げを実施した模様。旧貨幣と新貨幣の交換比率は100:1(旧100ウォン=新1ウォン)。北朝鮮内部で一部混乱が広がっている模様。
- ボズワース米特別代表の訪朝(同年12月8日~10日)
12月8日、ボズワース米特別代表が訪朝し、姜錫柱(カン・ソクジュ)外務第一副相、金桂冠(キム・ケグアン)外務副相他と会談。同特別代表は、訪朝後の記者会見で、六者会合共同声明の実施及び六者会合再開の必要性について米朝である程度共通の理解に到達した旨表明。また、同特別代表から北朝鮮側に対して拉致問題を含む日朝関係を進展させることの重要性を強調。12日、訪日した同特別代表は岡田大臣を表敬し、藪中次官と協議を行い、訪朝結果を報告した。
- 北朝鮮外務省声明(2010年1月11日)及び北朝鮮外務省報道官談話(1月18日)
1月11日、北朝鮮は、「制裁という差別と不信の障壁が除かれれば、六者会合そのものも直ちに開かれることが可能」とする外務省声明を發出。また、1月18日、北朝鮮外務省は、「わが方(北朝鮮)の平和協定締結の提案は、9・19共同声明(2005年9月の第4回六者会合共同声明)を全面的かつ完全に履行することができる合理的な方途である」との報道官談話を發出。

北朝鮮をめぐる最近の動き(3)

○ 王家瑞中連部部長の訪朝(同年2月6日～9日)

2月6日、王家瑞中国共産党中央委員会対外連絡部(中連部)部長が訪朝し、8日夜に金正日国防委員長と会談。この会談で、王部長より、胡錦濤国家主席の口頭メッセージを伝達したところ、金正日国防委員長は、胡主席の口頭メッセージに謝意を表した上で、中朝関係の発展を希望する旨述べつつ、①朝鮮半島の非核化は一貫した立場である、関係国が六者会合再開のために誠意ある努力を十分に傾注することが重要、②国内経済は全体的に良い方向へ発展している、旨述べたとされる。

○ 金桂冠(キム・ケグァン)北朝鮮外務副相の訪中(同年2月9日～13日)

2月9日、金桂冠北朝鮮外務副相は中国を訪問し、武大偉中国政府朝鮮半島事務特別代表と会談。双方は中朝関係、六者会合及び共通の関心事である問題につき意見交換をしたとされる。

○ ボズワース米特別代表の訪中、訪韓及び訪日(同2月24日～27日)

2月24日～25日、ボズワース米特別代表が訪中。同月26日、同特別代表一行は韓国に立ち寄った後に訪日し、岡田大臣への表敬、齋木亜洋局長との協議を行った。この中で、岡田大臣及び齋木局長は、最近の中朝間のやりとりを踏まえて行われた米中間の協議結果につき報告を受け、六者会合の再開に向けた今後の取組等につき議論を行った。その上で、引き続き、六者会合の早期再開及び北朝鮮による非核化に向け、日米及び日米韓の間で緊密に連携していくことを確認した。

北朝鮮をめぐる我が国の外交努力(1)

<我が国の外交努力>

- 鳩山総理の訪韓(2009年10月9日)
10月9日、訪韓した鳩山総理は、李明博大統領との首脳会談を行い、北朝鮮問題について、日韓、日米韓の揺るぎない連携を確認。核問題については、六者会合の再開に向けた重要性について一致したほか、拉致問題の解決に向けて引き続き協力していくことでも一致。
- 第2回日中韓サミット(同年10月10日)
10月10日、北京において開催された第2回日中韓サミットにおいて、鳩山総理、李大統領及び温家宝総理は、北朝鮮から前向きで具体的な対応を引き出すために引き続き緊密に連携することと一致。
- ASEAN関連首脳会議(同年10月24日～25日)
日ASEAN首脳会議、ASEAN+3首脳会議(10月24日)及び東アジア首脳会議(同25日)において、鳩山総理より、北朝鮮をめぐる諸懸案の包括的解決が重要であり、安保理決議の履行、北朝鮮の六者会合復帰と共同声明実施の約束、拉致問題等の人権状況への対応につき北朝鮮側の前向きかつ具体的な対応が必要である旨指摘。各国からは、概ね理解と支持が表明された。

北朝鮮をめぐる我が国の外交努力(2)

○ 日米首脳会談(同年11月13日)

11月13日、訪日したオバマ大統領との日米首脳会談において、オバマ大統領より、北朝鮮問題については日米で引き続き緊密に協議を行いたい、ボズワース特別代表の訪朝は六者会合の枠内で行われるものである旨述べた。これに対し、鳩山総理より、そのような米朝接触については、これを支持しており、これが六者会合の早期再開と北朝鮮の完全な非核化につながることを望む旨述べた。

○ 日露外相会談(同年12月28日)

12月28日、モスクワで行われたラヴロフ外相との会談において、北朝鮮問題に関し、ラヴロフ外相から、最近北朝鮮側に軟化の兆しが見られ、近く対話が再開される可能性があるのではないかとの見方が示された。また、拉致問題について日本側の立場を良く理解している旨述べた。

○ 日米外相会談(2010年1月12日(日本時間13日))

1月12日、ハワイで行われたクリントン長官との会談において、六者会合の再開に向けて引き続き緊密に協力していくことで一致。また、平和協定に関する交渉を進めるとの北朝鮮の主張について非核化への遅延工作の口実となる可能性があると認識で一致。拉致問題に関し、岡田大臣から、昨年9月の日米外相会談でクリントン長官から拉致問題に言及したことと謝意を表明し、これからもよろしくお願いたいと要請した。クリントン国務長官からは、昨年2月の訪日の際に拉致被害者家族と面会したが、拉致問題は許し難いものであるとして、本件に対する関心が表明された。

北朝鮮をめぐる我が国の外交努力(3)

○ 日中外相会談(同年1月17日)

1月12日、訪日した楊潔平外交部長との日中外相会談において、岡田大臣から、無条件での六者会合への復帰を含め、前向きな対応をとるよう北朝鮮に対し強く働きかけて欲しい旨述べた。楊部長からは、六者会合の早期再開に向け、中国としても努力したい、日本にも積極的な役割を担ってもらいたい旨述べた。

○ 日韓外相会談(同年2月11日)

2月11日、ソウルで行われた柳明桓外交通商部長官との日韓外相会談において、引き続き安保理決議に基づく制裁措置を着実に実施しつつ、北朝鮮による六者会合への早期復帰と共同声明の完全実施へのコミットメントを含めて、前向きかつ具体的な対応を促していくことの重要性を改めて確認。また、制裁解除や平和協定のためには北朝鮮による非核化等の措置がまず必要であるとの認識で一致。さらに、六者会合再開に向けて、日韓、日韓米で今後の取り進め方について緊密に議論していくことで一致。拉致問題に関しては、岡田大臣から、これまでの韓国側の御協力に感謝する、引き続き協力をお願いしたい旨発言したのに対して、柳明桓長官から、賛同の意が表された。